

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
英語 リーディング	<p>—全大問で読解型の新形式に変わり、様々な題材が場面や状況に応じて取り上げられた— すべて読解問題となり、題材は日常的なものから叙述文まで様々な内容が扱われた。意見と事実の区別を問うもの、解答として当てはまるものを二つ選ぶ問題などが出題された。読解量が大幅に増加し、素早く多面的に情報を処理することが求められたものの、難易は昨年センター試験並であった。</p>	<p>■コミュニケーション重視の観点から、内容や場面が工夫され、多面的なリーディング能力が問われるため、「情報处理的視点からの文章の理解力」や「出来事の展開を叙述する文章の理解力」、また、「まとまりのある説明的な文章の理解力」をそれぞれ意識しつつ伸ばしていこう。</p> <p>■日頃から場面や目的に応じた多種多様な英文素材を読み、複数の英文と図表の内容を組み合わせるなど様々な情報処理を必要とする読解の練習を、短時間に数多く行えるような学習をしておこう。</p>
英語 リスニング	<p>—大問数が増加し、第3問以降、音声は1回のみ。— 図表を用いた出題も散見された— 昨年センター試験と比べて音声情報と図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が増えた。日本語で設問の状況を与えられるなど、各場面や目的に応じた聞き取りを要する、実践的な英語力が問われた。第3問以降は音声の流れる回数が1回のみになった。難易は昨年センター試験並。</p>	<p>■音声情報の表面的な理解にとどまらず、具体的な状況やイメージを頭の中で思い浮かべられるかどうかポイントであった。場面や目的を意識しながら、音声を聞く練習を積もう。</p> <p>■今後も、音声情報と図表などの視覚情報をもとに解答したり、複数の情報を整理・判断したりするなど、多面的に情報を処理することが求められると予想される。重要な情報を逃さずに聞き取ることができるよう、メモを活用して短時間で情報を整理する練習を積むとよいだろう。</p>
数学 I・A	<p>—数と式、場合の数と確率で会話文、2次関数で現実の事象を扱う問題が出題された— 昨年センター試験と比較すると、大問数、配点は変わらず、一方で試験時間増加に伴い文章量や計算量は増加した。第1問、第3問の一部で会話形式の問題が出題され、第2問「2次関数」で陸上競技のストライドとピッチを題材とした問題が出題された。昨年センター試験より易化。</p>	<p>■試験時間が10分延長されたものの、問題量が大幅に増加したため、解答時間が足りなくなることが想定される。解答に必要な情報はどこに書かれているかを意識して問題を読むなどして、効率的に問題を解き進められるようにしましょう。</p> <p>■第2問[1]の陸上競技の短距離走を題材とした問題が、問題設定の説明だけで冒頭1ページを要しているように、日常事象を題材とした問題は文章量が非常に多く、また図や表も含まれる。解答に必要な情報を素早く抜き出し、誘導に従って条件を数式化する力を身につけよう。</p>
数学 II・B	<p>—試行調査同様、会話形式の問題やグラフを選択する問題が出題された— 関数の性質やグラフの特徴を考察する問題、会話形式の問題が、試行調査と同様に出了された。また、これまでのセンター試験では第5問であった「確率分布と統計的な推測」が第3問で出題された。昨年のセンター試験と比較すると、ページ数は増加したが計算量が減少したため、昨年センター試験より易化。</p>	<p>■文章量が増加したため、今までより素早く正確に情報を整理し、処理する必要がある。求めたいものは何かをまず探したり、これまで求めたものを整理する習慣を身につけよう。</p> <p>■見慣れない問題を解く際は、値を代入して結果を推測したり、条件を読み替えるなどして、自分の知っている知識と結びつけることが重要になる。焦らずに、どのような数学的性質を用いればよいか、どこに着目すれば選択肢を消去できるかなどを考え、見通しを立てて解き進めるようにしましょう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
国語	<p>—センター試験を踏まえつつ、複数テキストや応用的思考の設問が出題—</p> <p>昨年センター試験と比べて、設問数は減少、解答数は増加。センター試験の出題傾向を踏まえつつ、試行調査と同様に、複数の文章や資料を関連付けて応用的に考える設問が、全ての大問で見られた。特に第1問では、「ノート」による学習の過程を想定した出題があった。昨年センター試験よりやや難化。</p>	<p>■学習の過程を想定した設問や複数の文章・資料を関連付けながら応用的な思考力を問う設問が出題される。本文の展開を的確にとらえ、論旨や内容を精確に読み取る練習をしておくことに加えて、複数の資料から情報を読み取ってそれぞれの共通点や相違点をとらえる練習をするなどして、表面的な読解にとどまらず、深く考える力を身につけよう。</p> <p>■漢字の設問や語句の意味に関する設問、重要語や古典文法に関する設問など、基礎的な知識を問う設問は共通テストにおいても引き続き出題される。日々の学習や学校の授業などを通して、ひとつひとつの知識事項を習得していくことを心がけよう。</p>
世界史B	<p>—多様な資料を読解し、多面的・多角的に考察する必要が高まった—</p> <p>昨年センター試験と比べると、リード文と設問との関連性は大幅に高まり、また、多様な資料の読解が求められた。思考力を要する問題が大幅に増加したものの、問われている知識は基本的なものであったため、難易は昨年センター試験並。</p>	<p>■多様な資料を読み取る練習に加え、複数の資料の関連性や共通点・相違点に着目し、背景にある歴史的な事象の理解を深めよう。</p> <p>■資料と知識を組み合わせる問題が出題されるので、基本的な知識の習得にも力を入れて学習しよう。</p>
日本史B	<p>—グラフや新聞、地図など多様な史資料から多面的・多角的に考察する力が求められた—</p> <p>大問数6は昨年センター試験から変更なしだが、解答数は4個減少して32個となった。史料、地図、写真などの多様な資料が用いられ、史資料の読解力が重視された。社会経済史の出題は増加し、現代史の割合も増加した。基礎・基本の知識を要する設問もあるが、昨年センター試験よりやや難化。</p>	<p>■多様な多くの史資料を読解する力が求められる。教科書や資料集などを活用して、さまざまな史資料に慣れておきたい。史資料から読み取れることを自分でまとめ、教科書本文の内容との関連を確認しよう。</p> <p>■歴史を考察する多面的・多角的な視点が求められる。同じ出来事でも、立場や視点を変えるとどのような評価ができるのか、学習内容と関連づけて考えよう。</p>
地理B	<p>—資料読解重視の傾向は継続。多様な資料の読解力と地理的思考力が問われた—</p> <p>仮想の地域の地図や、地理院地図を含む多様な資料が用いられ、図表読解力と地理的思考力が問われた。第1問は探究活動や授業の場面設定で大問が展開された。問われた知識は標準的であったが、限られた時間の中で正確に資料を読解する力が問われ、昨年センター試験より難化。</p>	<p>■複数の資料を組み合わせる深い思考力を問う問題が出題される。複数の資料から情報を読み取ってそれぞれを関連付けたり、資料の数値の変化や差異がみられる点に着目して既習の知識をもとに背景を考察したりする演習を重ねよう。</p> <p>■仮説の検証など、根拠をもって論理的に考察する力が求められる。日頃から疑問に思ったことについて情報を分析して仮説を立て、さまざまな知識を駆使して検証してみよう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
倫理	<p>—会話やレポートなどを素材に、現代の倫理的諸課題について深い考察が求められた—</p> <p>出題分野は第1問で源流思想、第4問で青年期と現代の諸課題が扱われた。形式は従来のリード文に加え、生徒の会話やレポートなどが増えた。思想家の考え方の理解をもとに、現代の倫理的諸課題について考察する問題が多く、資料も多用された。取り組みやすい問題も多く、昨年センター試験より易化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 思想家・思想内容についての理解を深めよう。重要な語句や用語は、単に覚えるだけでなく、その意味や内容まで正確に理解することが必要である。また、同時代の思想家との共通点や相違点、ほかの思想家や思想への影響や批判なども含めて理解を深めておこう。 ■ 文章の読解力・理解力を身につけよう。原典資料や思想についての説明文を読解する力や文章の趣旨を論理的に思考する力を養うために、日ごろから原典資料などに親しんでおこう。
政治・経済	<p>—幅広い知識と思考力を活かして、資料を読み解く問題が多く出題された—</p> <p>「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中3大問で出題された。基礎的事項の深い理解が求められたことに加え、具体的な事象にあてはめる問題や資料を読み取る問題がみられ、難易は昨年センター試験よりやや難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本的な用語と、原理・原則を確実におさえることが大切である。単に語句を覚えるだけでなく、語句の意味や内容を、事例にあてはめながら理解しよう。 ■ 問われている内容を正確に理解する力や、複数の資料から必要な情報を抽出する力を身につけよう。そのためには、新聞やニュース、資料集などを活用し、論点を整理したり、根拠となる統計資料を確認するなど、日ごろから文章や統計資料に慣れ親しんでおこう。
現代社会	<p>—探究学習などの場面設定で、様々な文章資料を読み取り考察する力が求められた—</p> <p>身近なテーマから現代の社会の課題について出題され、全体として多様な出題形式によって思考力が問われた。模式図など様々な資料が使われ、全体の文章量はこれまでのセンター試験と比べて増加した。様々な文章資料を読み取り考察する力が求められ、昨年センター試験より難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文章資料を読み解釈する力や、複数の資料を関連付けて考察する力が要求される。普段から資料集などをよく読んでおきたい。また、資料の読み取りだけでなく、資料をどのように活用していくかということも考えるようにしよう。 ■ 知識をもとに考察する問題に対応するために、用語の暗記だけでなく、用語の内容まで正しく理解しておくことが重要である。また、事象同士の横のつながりを意識しながらの学習や、異なる分野の事象がどのように影響し合っているかを関連付けながら学習をすすめよう。
倫理、 政治・経済	<p>—政治・経済分野では資料をもとに考察する力を問う問題が出題された。独自問題なし—</p> <p>すべての設問が単独科目「倫理」および「政治・経済」と共通であった。政治・経済分野では、資料や模式図を用いた考察問題が多くみられた一方で、倫理分野では、リード文と会話文を結び付けて考える問題がみられたが基本的な事項を問う問題が中心であり、難易は昨年センター試験並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 倫理分野では、文章の読解力・理解力を身につけることが大切である。原典資料や思想についての説明文を読解する力や文章の趣旨を捉えて論理的に思考する力を養うために、日ごろから原典資料などに親しんでおこう。 ■ 政治・経済分野では、問われている内容を正確に理解する力や、複数の資料から必要な情報を抽出する力を身につけることが大切である。そのためには、新聞やニュース、資料集などを活用し、論点を整理したり、根拠となる統計資料を確認するなど、日ごろから文章や統計資料に慣れ親しんでおこう。

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
物理基礎	<p>—スマートフォンを用いて加速度を測定するなど、探究活動を意識した出題があった—</p> <p>定性的な理解を中心に問われた。カッターの消費電力について、商品ラベルから必要な情報を読み取り、学んだ知識を活用する問題や、スマートフォンを用いて台車の加速度を測定し、記録テープを用いた結果との違いを考察する問題は目新しかったが、選択肢の少ない問題が増え、昨年センター試験より易化。</p>	<p>■ 日常の場面でみられる事物・現象について、教科書にある物理法則や公式と関連づけて考察する習慣をつけておこう。また、物理で学習した内容が、どのような場面で活用・関連されているのかを意識するようにしよう。</p> <p>■ 授業などで実験をする場合には、ただ手を動かすだけではなく、実験の設定や操作、結果にどのような意味があるのかを考察するようにしよう。また、データ処理やグラフの表し方・読み取り方についても慣れておこう。</p>
化学基礎	<p>—知識・理解を問う問題が中心。陽イオン交換樹脂を題材とした実験が扱われた—</p> <p>第1問では、原子の質量数や原子番号の数値そのものをマークする形式で解答させる問題が出題された。第2問では、実験の題材として陽イオン交換樹脂が扱われ、問題文を正確に読み解き、実験操作や実験結果を考察する力が求められた。知識と結びつけて考える問題が多く出題され、昨年センター試験より難化。</p>	<p>■ 教科書で扱われている基本的な知識は、苦手分野を中心に確認と問題演習などをくり返して、正確に理解しておこう。</p> <p>■ 図やグラフなどのデータを読み取って考察する力は、従来のセンター試験と同様に必要とされる。センター試験の過去問題などの演習を通じて、データを読み取って考察する力を養っておこう。</p>
生物基礎	<p>—設問文の量が大幅に増加。知識を踏まえたグラフの読解と思考力が求められた—</p> <p>昨年のセンター試験と比べて解答数は減少したが、設問文が長くなり題意の読み取りに時間を要するとともに、考える要素が増えた。ウイルス感染を題材とする設問が複数出題された。知識のみを問う問題の割合が減り、知識をもとに資料を解釈する必要のある設問が多く出題され、昨年センター試験よりやや難化した。</p>	<p>■ 教科書に掲載されている重要用語を覚えるだけでなく、それらの意味を理解して、さまざまな場面で活用できるようにしておこう。</p> <p>■ 新聞やテレビで取り上げられている、環境や身近な生き物、健康などの社会と関連した資料を読む際に、教科書で学んだ概念とどのようにつながっているのかを考える姿勢を身につけておこう。</p>
地学基礎	<p>—課題の把握から解決までが幅広く問われ、仮説検証の方法を問う出題が複数あった—</p> <p>課題の把握から解決までの過程が幅広く問われた。第1問では実験・観察が多く題材とされたほか、仮説検証の方法についても問われた。第2問では台風による海面上昇量の推定が扱われた。また、温暖化に関連して気候のフィードバックについても出題された。昨年のセンター試験より易化した。</p>	<p>■ 教科書に掲載されている基本的な内容をまんべんなく身につけておこう。</p> <p>■ 図やグラフから必要な情報を抽出する、文章で説明された情報をもとに作図をするなど、図を用いて考察する練習を積んでおこう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
物理	<p>—ダイヤモンドや蛍光灯など、身近な素材をテーマに考察させる問題が出された—</p> <p>物理の全分野から出題された。ダイヤモンドが明るく輝く理由を与えられたグラフをもとに考察させる問題や、蛍光灯をテーマに電子と水銀原子の衝突について考察させる目新しい問題が出された。思考力を問う出題が多く、昨年センター試験よりもやや難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■多様な資料を読み取って考察する問題は今後も出されると予想されるので、日頃から図やグラフの内容をもとに比較・推測・判断する経験を積んでおこう。 ■目新しい題材の問題にも対応できるように、日常の場面でみられる現象と物理法則がどのように関連しているのかを考えることを、普段から意識しよう。
化学	<p>—初見の反応や実験の問題が多く出題され、読解力や思考力が要求された—</p> <p>大問数が昨年の7問から5問に減少し、配点は全大問20点に変更された。読解力や思考力を要する問題が数多く出題された。鉄の錯イオンに関わる見慣れない実験を題材にした問題や、グルコースの実験を題材にした必要に応じて方眼紙を使う問題が目新しい。昨年センター試験よりやや難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■対策としては、苦手分野をつくらないようにまんべんなく学習しておく必要がある。 ■教科書に掲載されている実験や探究活動について、その意図や観察方法をしっかりと理解しておこう。さらに、観測結果のデータから、作図や計算をするといった演習を行うことも大切だ。
生物	<p>—分野融合問題が多く出題され、複数の資料を科学的に分析する思考力が求められた—</p> <p>全大問必答で、従来のセンター試験のように大問ごとに分野を分けた出題ではなく、多くの大問で分野融合問題が出された。大問間での配点や構成のばらつきも大きかった。複数の資料を解釈するなど科学的思考力が問われるが、題意が把握できれば解答しやすい問題が多く、昨年のセンター試験より易化した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書に記載されている知識を覚えるだけでなく、身のまわりの現象にあてはめて知識を活用する姿勢を身につけよう。また、分野をまたいで関連する内容は、合わせて体系的に理解しておこう。 ■教科書で扱われている図やグラフだけでなく、インターネットで公開されている論文や調査報告などの資料から情報を読み取り、読み取った情報と知識を組み合わせる機会を増やそう。
地学	<p>—水を題材とした総合的な問題のほか、図の読み取りや計算を要する問題が多く出題—</p> <p>第1問では水をテーマにして部分溶解やハビタブルゾーンなど幅広い分野の問題が出された。エクマン輸送量に関するグラフなどの目新しい図のほか、高層天気図や星団のHR図など多くの図が用いられた。計算問題は多かったが、紛らわしい選択肢は減り、昨年センター試験よりやや易化した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■学校の授業を通じて、教科書に掲載されている実験や探究活動への理解を深めておこう。また、仮説を立てて検証をしたり、観察・実験の結果から新たな仮説を立てたりする経験を積んでおこう。 ■図の特徴を捉えて文章で表現したり、文章で与えられた内容をもとに作図をしたりすることで、図を活用して考察する力を身につけておこう。